はじめに

東洋医学「健康づくりの里」

東洋医学「健康づくりの里」は、高知県中村市に位置し、四万十川や太平洋をはるかに臨み、緑の森に囲まれ、豊かな自然の恵みに感謝し、厳しい自然の力に畏怖する環境の中にあります。

東洋医学「健康づくりの里」は、健康づくり情報交流センター、宿泊施設、中国医学研究所の3つから成る複合施設の集合体です。

敷地はもともと小高い森であったところを切り拓いてつくりました。私達は、この敷地に建物を設計するにあたり、まず切り拓く前の森の精を敬い、森を再生した空間を創ろうと設計のコンセプトとしてこの施設を「こだまの杜（木霊の杜）」と名づけました。そして、情報交流センターのメインロビーは、その木立を再現した杜空間としています。

敷地がビジョンをつくり出す

この敷地にたたずんだ時、人はこの壮大なる自然の中で果てしなく広がるインスピレーションや夢やビジョンをめぐらすことができます。

「地球と人にやさしい」

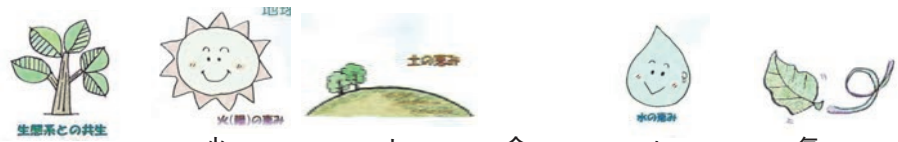
私達は、設計に先立ち、この東洋医学「健康づくりの里」建設プロジェクトにビジョンを与えるべく、またグリーンディベロップメントの開発手法にのっとり、「地球と人にやさしい」という観点から設計のための様々なコンセプトを構築しました。

「間の心」「五感をよみがえらせるいやしの場」

それが、「間（ま）の心」であり、「五感をよみがえらせるいやしの場」としての共通コンセプトです。また、これらのコンセプトを実現するために、自然と人とのかかわりの中で建築をとりまく要素を6つの基本要素としました。

これらのコンセプトを構築することで、私達設計者を始めとしてプロジェクトの計画・設計に携わる各方面の人が、共通の意識や目標の中でその計画プロセスを経てこられたのではないかと自負しています。

6つの基本要素（気、木、火、土、金、水）



木　火　土　金　水　気